

(公財)コープともしびボランティア振興財団

2016 年度事業報告

1. 支え合う地域づくりをめざし、多様な活動に取り組む166グループに対し、総額999万7千円の助成を行いました。
2. 社会的課題解決にチャレンジする団体を応援するための資金調達について検討し、地元企業7社から寄付を得て、新たな支え合いのしくみを起案しました。
3. 「地域の居場所づくり」について、「(特非) ひょうご・まち・くらし研究所」と連携し、現状把握とともに求められる居場所の機能について研究をすすめました。同時に財団として「地域の居場所立ち上げ助成」を行いました。
4. 設立20周年記念として、コープこうべの宅配商品情報誌、店舗情報誌（発行部数合計147万部）で財団の「特集号」を作成・発行いただき、地域に広く財団の存在をアピールしました。

I. 地域や暮らしにかかわる課題を把握し、その解決を目指す活動・人・ネットワークを支援

1. ボランティア活動助成

(1) 2016 年度助成の分野別実績

	分野	対象者	件数	助成額(円)	助成給付率(%)
①	福祉	高齢者	42	1,835,000	18.4
		障がい者	17	1,171,000	11.7
		地域住民	7	315,000	3.1
		在日外国人	1	108,000	1.1
		施設・病院	3	55,000	0.5
		合計	70	3,484,000	34.8
②	まちづくり		7	429,000	4.3
③	文化・芸術		5	585,000	5.9
④	国際協力		4	312,000	3.1
⑤	男女共同参画		1	195,000	1.9
⑥	子ども育成		42	2,799,000	28.0
⑦	その他 ※		1	146,000	1.5
⑧	環境の保全		36	2,047,000	20.5
合計			166	9,997,000	100.0

※その他 は性暴力被害者支援

(2) 助成グループ相互の交流促進と広報活動

2016年5月24日には、財団から助成を受けるすべてのグループが一堂に会する「市民活動交流会 2016」を生活文化センターで開催しました。グループワークを通して、それぞれの活動の紹介とともに、グループとしての課題や目標について、活発に情報交換が行われました。この会を通して、顔の見える関係ができ、互いのグループを訪問したり、一緒にできる活動を企画するなど、その後の連携のきっかけになっています。

また、2016年度は財団スタッフが積極的に助成グループを訪問、取材し、財団が年4回発行している「ともしび通信」や、集中募金のキャンペーン用媒体、コープこうべの広報媒体に掲載することで、財団が助成しているグループの活動内容について、広く地域に発信しました。

(3) 助成グループへのアドバイザー派遣

2016年度は、希望する3つのグループに対して、アドバイザー派遣を試験的に実施しました。アドバイザーは、当財団運営委員を中心に派遣し、グループの運営上の課題や資源を整理するなど、それぞれのグループに個別にアドバイスを行いました。次年度も継続します。

2. 市民力を高めるボランティアコーディネート実践のための調査研究助成

調査研究対象者による報告会

この助成制度は、ボランティアな活動を幅広くコーディネートできる人材が地域づくりのキーになるという問題意識から「活動への助成」に加え「人を育てる助成」として2006年度にスタートしました。約11年が経過し、助成の枠組みを見直すため、2015・2016年度は、募集を中止しました。一方、2013・2014年度の対象者が体調その他で該当年度に報告できなかったため、2016年度に報告会を開催しました。ファシリテーターが参加者から報告者への質問を引きだし、回答を聞く中で報告内容への理解が深まるなど、意義深い報告会となりました。

日時：2016年6月24日(金) 13:00～15:30

場所：コープこうべ 健保会館 2階大会議室 (参加費無料)

ファシリテーター：川中 大輔さん (シチズンシップ共育企画代表)

参加者：30名

氏名	研究テーマ	助成時所属
福井 正人	在宅失語症者の意欲維持・向上に関する要因に関する研究	聖マリア病院 言語聴覚士
岡本 祥公子	プロボノとNPO・地域コミュニティとのコーディネート実践	NPO法人サービスグラント

3. 研修事業

今年度は、各地域でコープこうべ地区活動本部が主催する講座を助成しました。

研修テーマ・講師名	時期、参加者、後援先 開催場所
できることから始めよう「ボランティアきっかけ講座」 ----- motto ひょうご 事務局長 栗木 剛氏	4月20日 参加人数 15名
笑いヨガ体験会 ----- 日置 ゆりえ氏	5月30日 参加人数 33名
認知症を予防しよう ----- 関西福祉科学大学 教授 重森 健太氏	6月4日 参加人数 90名
認知症予防トレーニング (全5回コース) ----- 関西福祉科学大学 教授 重森 健太氏	7月21日・8月25日・9月29日・11月17日・21日 参加人数 235名

II. 地域に当財団の理解者、支援者を拡大

新たな活動を掘り起こすとともに、当財団への関心や理解者を増やす取り組み

1. 「1 DAY 視察交流ツアー」を継続実施

①淡路島 5/30 ②丹波篠山 10/19 各 40 人参加

財団の助成グループなどが運営している居場所やサロン（自宅、廃校した小学校、地域の施設活用）、その他地域課題に取り組む現場を訪問。それに地元の農産物の収穫体験を組み込んで企画しました。各回とも応募者が定員の2～3倍になるなど、通常では行けないところが視察できると大変好評。また昨年のツアーで丹波篠山の中間支援組織（篠山市民プラザ）と連携がすすんだことで、今年度の篠山視察ツアー当日に説明会も行うなどし、効率的に開催しました。

2. 「地域の居場所立ち上げ助成」実施

①セミナー&説明会 9/29 59人参加 ②審査会 12/14日に実施

20周年記念事業の1つとして取り組んだ「地域の居場所立ち上げ助成」を2016年度も実施しました。本助成は2015年度から3年計画で取り組んでおり、地域で居場所を立ち上げようとしているグループを対象にした、1グループ最大20万円、総額60万円の助成金制度です。9月にセミナーを行い、昨年度同助成金を獲得した「尼崎ENGAWAKA計画」の藤本遼さんが事例報告しました。同じ志を持つ人との交流や、今後の情報収集を目的に参加した人も多く、活発に交流が行われました。結果として、

10 件の応募があり下記 4 件の活動に対して、1 月 24 日に開催した運営委員会の場で助成を決定しました。

2016 年度「地域の居場所立ち上げ助成」4 グループ

グループ名	開設場所	活 動 内 容
七丁目クラブ	神戸市 垂水区	代表が購入した中古住宅にて、週 5 日開設。月曜は地域住民を対象としたふれあい喫茶、水曜は幼児向け絵画等の貸教室、木曜は囲碁・将棋を活用した男性の居場所、金・土曜は季節のイベント等を開催している
おうちごはんとくらしの学び舎「ままや」	姫路市	子ども文庫活動に 20 年以上従事してきた複数のメンバーを中心に、平屋の一戸建てを借りてほぼ毎日開設。平日は 10～20 人/日にランチ提供。週末は不定期で各種ワークショップやミニ講演会等を開催している
赤穂市地域活動連絡協議会	赤穂市	代表が購入した商店街の一角にある古民家にて 2017 年 4 月より本格的に活動を開始(予定)。月 4 回、乳幼児親子向けのワークショップを開催する他、地域の人たち中心の勉強会や子ども食堂等を開催する
カフェボンジュール	神戸市 北区	北区筑紫が丘の中古住宅を借り、週 4 日開設。遠方に行きづらい高齢者を中心に地域の人たちが集まるカフェやイベントを開催している

() 内は助成金額

3. 社会的課題の把握に努め、新たな課題について学習会を開催

(1) (特非) ひょうご・まち・くらし研究所との協働で「居場所調査」を実施

2015 年度に (特非) ひょうご・まち・くらし・研究所と協働で実施した居場所の実態調査 (回答票数 502) をもとに、2016 年度は週 1 回以上居場所を開催している団体への追加アンケートを実施しました。さらに 9 団体に面接調査を行い、2 回の公開研究会を開催しました。

公開研究会では、社会福祉協議会や、居場所運営者からの事例報告のほか、神戸学院大学の藤井博志教授にご講演いただきました。その後、これからの居場所に期待される、地域のセーフティネットとしての役割について検討しました。これらの調査の経緯と結論をまとめた報告書を発行しました。

(2) 子どもの貧困について学習会を実施

2017 年度に子どもの貧困の学習会を他団体と連携して開催するに当たり、2016 年度には財団の運営委員とスタッフのための事前学習会を行いました。

講師に京都山科醍醐こどものひろば理事長の村井琢哉氏を迎え、子どもの貧困の概念や対策について、学びを深めました。

Ⅲ. コープこうべとの連携により、広報、人材育成、資金調達を強化し、地域課題への対応力を向上

1. 広報強化の継続・発展

(1) コープこうべの事業媒体でともしび財団特集を発信

設立 20 周年をテーマに、宅配事業や店舗事業による広報活動が行われました。

① 『めーむ』特別号（タブロイド版・カラー）2016 年 12 月 27 日発行 47 万部
当財団が助成している団体の活動紹介や、めざすもの、ご支援のお願いなどについて、4 ページにわたって特集。また、2017 年 4 月からスタートする「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」について紹介しました。

② 店舗情報誌（B3・カラー）2017 年 2 月 3 日発行 100 万部
節分の日の店舗チラシの裏面全面を使って、当財団が助成している団体の活動紹介、店舗での募金や、古本募金の方法について特集。また、店舗情報誌でも、上記のプロジェクトの立ち上げについて、紹介しました。

これらの媒体の発行後に、問い合わせの電話や、古本募金が例月の 4 倍になるなど、大きな効果がありました。

(2) SNS の活用

2. 人材育成の連携強化

(1) 財団サポーター登録の推進

(2) 市民活動交流会への参加

(3) 当財団の助成グループへのコープこうべ職員の活動参加

3. 資金調達の連携強化

(1) 賛助会費・寄付・募金について

2016 年度も、寄付・募金の増加にむけて様々な取り組みを行ったことから、目標金額を達成しました。

(2) 古本募金「きしゃぼん」の取り組み

7 月から新たに取り組み始めた「古本募金 きしゃぼん」は組合員の年代、ニーズにマッチし、当初から大きな反響がありました。また、居場所やサロンを運営しているところや、拠点づくり職員のいる店舗などでは、回収ボックスを常設し、地域の組合員に呼びかけて、継続的に協力をいただいています。組合員まつりで「古本市」を行い、売り上げを財団に寄付してくれたコープ委員会もありました。

小さなお金の積み重ねですが、7 月から開始して 200,482 円の募金に成長しました。次年度は、さらに工夫し、取り組んでもらえる人を増やします。

(3) 夕食サポート事業との連携

高齢者世帯を中心に毎日夕食のお弁当を届けるコープこうべの夕食サポート事業「まいくる」では、兵庫県内での利用1食あたり0.5円を当財団に寄付いただいています。毎年緩やかに増加しています。

4. 基本財産運用